

index

- 2 新年のごあいさつ
- 4 新春対談  
舞鶴から見える家族・ふるさとのおすがた
- 8 シリーズ市政の「今」  
農業振興による経済規模の拡大を目指して
- 10 写真で振り返る「赤れんが」と「港」
- 12 TOPICS
- 14 2016年クルーズ客船寄港予定
- 15 ポーツマス市訪問青少年英語研修の参加者募集
- 16 マイナンバー「個人番号カード」  
交付専用窓口を開設
- 17 公共施設再生実施計画(案)に  
ご意見を
- 18 市政情報BOX
- 19 地震に備えましょう
- 20 連載コーナー
- 22 カメラアイ
- 24 保健センターのお知らせ
- 26 お知らせコーナー
- 32 まいづる元気人

今月の表紙



12月6日に開催された、舞鶴和太鼓フェスティバル。写真は「喜恵」による演奏の様子。

# 未来の舞鶴を つくる『夢』を共に

あけましておめでとございます。皆様におかれましては、希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、これまで先人から引き継いでまいりました取り組みが、大きな成果となって表れた、まさにターゲットトイヤーにふさわしい一年であったと感じております。戦後、約66万人の引揚者を心温かく迎え入れた「引き揚げのまち・舞鶴」。先人の思いを、今を生きる我々が引き継ぐ中、戦後70年・海外引揚70周年という年において、引揚記念館所蔵資料の「ユネスコ世界記憶遺産」登録決定へと結び付きました。

決定に至るまでにいただいた多くの皆様のお力添えに心から感謝申し上げます。登録が決定した日、多くの市民、引き揚げ関係者、また、未来を担う子ども達と共に「平和祈念式典」を開催できた巡り合わせは、先人たちの思いが重なった奇跡で

新年にあたり、市民が舞鶴の魅力と可能性を認識し、「丸」となって、新たな夢に向かっていける、次なる世代に素晴らしいふるさとを引き継ぐための目標を掲げたいと思います。

まず、「京都府北部地域を経由する北陸新幹線ルート延伸の実現」です。昨年3月に、北陸新幹線「長野ー金沢間」が開業し、北陸地方を中心に大きな経済効果を生み出しました。現在、平成35年春の「金沢ー敦賀間」開業に向けた取り組みが進められております。

昭和48年に整備計画が策定された北陸新幹線は、「東京ー大阪間」を日本海側の都市を経由して結ぶ日本海側国土軸の形成を図る重要な社会資本であり、国土の均衡ある発展を促進する取り組みです。

京都府北部地域は、全体人口で約30万人、地域内総生産額は1・1兆円、製造品出荷額は約6,000億円、観光入込客は約900万人と、日本海側における重要な都市圏です。

日本海側国土軸の形成による新しい国土構造の構築に向けた社会資本整備として、北陸新幹線が京都府北部地域を経由するルートの実現に向けて、本市はもとより、京都府北部地域5市2町一丸となって取り組んでまいりたいと考えております。

次に、「国土強靱化を図るリダンダンシー確保のための京都舞鶴港へのエネルギー基地の整備等の実現」です。京都舞鶴港は、地震発生時にも津波の影響を受けにくい天然の良港であり、海上自衛隊、海上保安庁など、日本海側の防衛と海の安全を担う機関が所在し、南海トラフ巨大地震等の太平洋側大規模災害が危惧される中で、リダンダンシー確保の観点からも、我が国において本地域が果たす役割は大変重要なものになっております。

あつたと思っております。

今後、世界的に認められた貴重な引き揚げの史実を後世に、未来にしっかりと引き継いでまいります。

また、京都縦貫自動車道が全線開通し、「昨年に開通した舞鶴若狭自動車道と合わせ、地域の長年の宿願であった高速道路網が完成したことにより、人・モノの流れが大きく変わる光景を目の当たりにする中で、完成に至るまでの関係者の不断の努力に深く感謝するとともに、地域一丸となって、この好機を最大限に活かし、ふるさと舞鶴をさらに発展させ、未来へと繋いでいかなければならないと感じたところです。

このように長年にわたる地域の取り組みが大きな成果へとつながる中、私は、これまでから「市政を担うリーダー」は、地域の皆様と共に描くことのできる『夢』を語るべきである」と申してまいりました。

戦後復興期に掲げられた「平和産業港湾都市」への転換、今日の高速道路網の完成や京都舞鶴港の発展など、その緒に就いた当時は、まさに『夢』であつたかと思えます。新たな『夢』に、市民の皆様をはじめ、多くの人が共有し、実現に向けて共に汗をかき、苦難を乗り越え、推し進める中で、今日の発展に至ったものであります。

現在、京都府ならびに兵庫県が中心となって研究会を設置され、京都舞鶴港から兵庫県三田市を結ぶガスパイプラインの整備案が検討されております。

また、京都府では、アラスカ州とのエネルギー資源に関する協力協定の締結、京都舞鶴港を核としたエネルギー拠点の検討が進められているところであり、国においては、平成28年度に日本海側におけるメタンハイドレート回収技術に関する調査が予定されております。

本市の有する地理的条件、国土強靱化における重要性を踏まえ、京都府との強固な連携のもと、京都舞鶴港を日本海側におけるエネルギー拠点とするための取り組みを進めてまいりたいと考えております。

これら北陸新幹線のルート延伸、エネルギー拠点整備などの『夢』の実現には、市民の皆様はもとより、広く、多くの方々の思いを結集することが必要不可欠です。

今後、京都府北部5市2町が一体となり30万人都市圏として、地域が有するポテンシャルを最大限に発揮するとともに、日本海側国土軸において、また、近畿関西経済圏における重要性を強く発信していくことによって、『夢』が実現する道は拓けてくるものと考えております。

先人が我々に繋いでくれた今を、さらに魅力あふれる「未来」へと繋げられるよう、地域一丸となって『夢』の実現にまい進しましょう。

年頭にあたり、市民の皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。新年のごあいさついたします。



舞鶴市長 多岐見良三